

# 大内中学校通信 紺碧

## 学校教育目標

- 1 意欲をもって学習する生徒
- 2 健康で実践力に富む生徒
- 3 豊かな心情をもつ生徒
- 4 すすんで働く生徒

真岡市立大内中学校 Tel 0285-82-2541  
〒321-4405 真岡市飯貝1159  
HP <http://www.moka-tcg.ed.jp/ouchihsc>



大内シンボル・  
キャラクター  
『モーチョカウ』

真岡市立大内中学校  
令和6年度 第10号  
令和7年2月発行

## 校長室から

### 進む部活動改革

本校は、スポーツ・文化芸術関係を問わず、部活動のとても盛んな学校です。その部活動が、全国的に大きな改革期を迎えています。

令和4年12月にスポーツ庁から、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示されました。言うまでもなく学校の部活動は、スポーツや文化芸術に興味・関心のある同好の生徒が、自主的・自発的に参加する学校教育活動の一つです。参加することで、体力や技能の向上を図る以外にも、生徒同士や生徒と教師との好ましい人間関係の構築、学習意欲の向上や自己肯定感、責任感、連帯感の涵養など、多くの教育的意義があるものです。私も卒業して40年以上経ちますが、中学校の一番の思い出は、厳しくも楽しかった部活動です。

しかし、最近の少子化の進展や教員の働き方改革などにより、これまで通り学校だけで部活動を運営するのが難しくなっています。比較的生徒数の多い中学校ですら、部員数減少により試合ができない部が出てきたり、満足に顧問の配置ができなくなったりしている現状にあります。本校のような小規模校などではさらに深刻な状態にあると言えます。

そこで、国では方針を示し、令和5年から3年間をかけ、できるだけ学校の部活動を地域に移行していこうというのがこのガイドラインです。これまで学校中心で運営していた部活動を地域中心で運営することにより、これからの課題を解決していこうとするものですから、そう簡単ではありません。そのためには、まず、指導者確保と活動場所の問題。さらには、どれだけ生徒たちの興味・関心を満たす活動が確保できるかという問題や怪我の保障、受益者負担の原則の理解等々、解決しなければならない問題が山積しています。逆に言えば、よくこれまで学校はこれらの課題を抱えたまま頑張っていたとも言えます。本来であれば、地域に生徒たちを受け入れてくれる受け皿がきちんと整ってから移行を進めればいいのですが、それでは間に合わないのです。これまでも、部活動指導員や外部指導者を地域の方をお願いしながら、少しずつ改革は進んできましたが、今後さらに進めていかねばなりません。第一に、生徒たちの興味・関心を満たし、教育効果を十分に上げるため、教育行政、学校と保護者、地域がこれまで以上に連携、協力して行く必要があります。



(表彰された生徒たち)



## 【立志式・立志記念講演 2/4 (火)】

2年生が立志式を迎えました。最初に校長先生からもってほしい3つの心（好奇心・感動の心・感謝の心）の話がありました。続いて生徒代表励ましの言葉として3年の助川紗菜さんから「挑戦する機会というものは誰にでも平等である」というスティーブジョブズの言葉を借りて、2年生に力を与えてくれる頼もしいメッセージがありました。

続いて立志生誓いのことばの発表がありました。明確な目標がある生徒も、そうでない生徒ともに今の純粋な気持ちを堂々と発表することができました。

立志式直後の立志生合唱では「旅立ちの時 Asian Dream Song」を鈴木利徠翔さんの指揮、大関歩果さんの伴奏により力強く立派な歌声を披露しました。

立志記念講演では、プロカメラマンで本校卒業生の野澤亘伸（ひろのぶ）さんによる「カメラマン32年間で見てきた世界」という題目で御講演いただきました。野澤さんからは様々な国々の現状と共に「中学生には今を大切にしてほしい」「いろいろなものを考えて生きてほしい」という熱いメッセージをいただき、2年生にとって貴重な経験となりました。



## 【紺碧祭（後編） 11/23 (土)】



※学校のホームページも御覧ください。  
よろしければ 凸 (いいね) ボタンを押してください。

